

# 子どもと音楽に就いての感想

東京音楽學校教授

信

時

潔

あそびの氣持がその生活の殆ど全面を貫いて居る子どもの世界では、音楽も相當の役目を果して居る。音楽の原始社會に於ける起源を示唆する色々な現象を子どもものくらしの内に見出すことは他の事柄に就いてと同様に誰もが思ひつくことであらう。おそらくこの國の人でもその生涯の最初にきくであらうところの子守唄は種々な形で音楽の一領域をなしてゐる。お伽噺の中でも唄めいたものや囃言葉は子どもの興味を活潑にし話の筋の要約に一役を勤めて居る(かちかち山、ぶんどく茶釜、等)。お伽噺そのものが童謡のよき題材であることはいふまでもない。おにがっことは先づ「おにがっことするものよつこいで」のうたで召集せられ、歸途のマーチをして「蛙がなくからかへろ」が唄はれるまで次々を轉化して行く遊戯のコースで「じゃんけんぼんよ」「かごめかごめ」「せつせつせ」「こゝはきこの細道ぢや」「おしくらまんぢう」等々は動作を緊密な關係で歌が必要とされる。自然の現象に對してもすぐ歌が出る「夕やけこやけ」「雪やこんこん」「雨こんこんやんざくれ」等で現象を樂しむ氣持や希望や思慕の念が吐露される。幼兒の學校でつこには唱歌がつきものである。その外友達や家の者への實用的な言葉でも音樂的に強調されるこごが少なくない。「ハールチャン、アソビマセウ」「モーイーヨ」等々。勿論これは聲を延ばすこごによつて目的の達成に便する自然の發達であり、頭腦や發聲器官の發達の程度とも關係があり、又女子に多いこごでもあらうが、芝居のせりふや狂言のはなし方を思はせるものがある。樂隊の行進について行きたい衝

動を感じない子きもは少なく、チンドン屋から囃子をぬけば子きも等への魅力は著減するであらう。玩具に樂器その他何等かの音の興味を持たせたのは相當に多い。然しこんな事をこの上ならべたてるのは恐らくこの雜誌の讀者諸君にはむだであらう。病氣、不健康、聽官や發聲器官の缺陷、特異な心性等に由來する音樂の嫌惡無關心も教育上大事な題目であらうが、普通の子きの場合長上のしつけない子きもの環境の特殊事情の影響も一考に價するを思ふ。この家でも子きもが餘り唄つてばかりるたり太鼓をたきづめでは迷惑である。嚴格な家庭では口笛は御法度である。これは生活の秩序の爲め無理のない事であり、つきつめて考へればその國その時代の大人の生活に於ける遊戯や藝術の全生活に對する均衡を制約するものであらう。

○

そこで話はやゝ外れるやうだが、子きもの世界は結局色々な意味で大人の世界の鏡であるから今の日本の大人を主とした社會の耳の文化に就いて考へて見たい。都會の騒音の防止整理は近頃漸く問題にされるやうだが、看板、廣告、電飾、裝幀等が旅行者にまつてその國の目の文化の水準を知るに便利なやうに、街頭の音樂や騒音防止の實狀はその社會の耳に對する關心を神經を察するに便利である。鍋釜のひゞの有無を耳で檢べたり船體の銚つけの良否をハムマーで打つて檢査するが、飛行機の發動機の檢査調整に爆音をきゝわけける事が大切で飛行中の故障の豫防に役立つ、その識別能力は飛行家の資格の一つとも云ひ得る由である。その方面の我國の實狀を聞いたこともある。國語の教育にアクセントの事が前面に乗り出して來たのは近年の事であり、大人の演説なきの現狀ではまだそれ程一般の注意を認め難い。唱ふために詩歌がつくられる時その格調等に就いての作者の用意は我が國語の特殊性を考へに入れた上でも西歐の場合に比べて一般にはまだ大まかなやうに思はれる。我國現代の文學のうちで、或は一般の會話のうちで音樂はみんな風に取扱はれて

ゐるが。又在來の邦樂に騒音的要素の多いこともその道の人の認めるところである。その他社會的慣習や禮儀に於ける聽覺への顧慮の現状等を思ひ合せて見るに、明治以來新たに立て直されて來た我國の耳の文化は少なくとも目の文化に對して遜色のあるところは認めざるを得ない。それらは何等かの形で子どもの世界に反映し影響して居るわけである。併し乍ら時代の變遷と教育の進化の爲めに今の子どもは大人のそれよりも往々訓練されて居り、少なくとも鈍磨されてゐないところが屢々感ぜられる。そこに我國將來の耳の文化への希望を見出すわけである。

次に兒童の音樂教育に就いて考を進める前に實際子どもが如何様に音樂を受け入れ又こなして行くか云ふ事にふれたい。幼兒の唱ひ初めの時期はたゞ「あ、あ、」と發音の抑揚高低リズムの粗い模倣である。それ迄にも單純な音に喜んで他人の歌や音曲を面白がる事は充分認められる。少し言葉を話せる様になるに歌詞への興味が増はる。この時期には智能の發育のつり合から往々歌詞が實行上の優位をしめる。音樂的感覚が著しく缺けて居る者はゆる音痴に近い場合には他の事では立派な大人になつても唱歌は依然この状態に止まるのを見受ける。それから段々リズムや音程の判別と表現能力とが確かになり精しくなり音域は廣まり表情力が加はるのである。

子どもがかなり確實に形や色を認識し三角四角と赤青とかの感覺の基本的な意味を理解するやうに、簡單な和音の性質や音程の特質を案外早くから相當確實に把握し、今の大人が往々唯やかましく思ふだけでその役目と興味を理解しない伴奏を喜んだり、器樂曲の性格を相當正しく聴き分ける事はその道の人々のよくいふところである。曲の良否に就いても子どもは吸收力が強いから、あてがはれたものは一應何でも覺えるが、少しく水い目で見るに大體よい曲が選り分けられて長もちする。この點は一般音樂に對する大衆の批判と似て居る。

教材。大體年齢別に教材の難易を分け得るこゝで居るが、その判断に際して音程や拍子等の外形を器械的に目安にするに往々當らぬこゝがある。子ぎもの音楽は單純で素直なのがよいこゝは明らかだが、それは目につきやすい外形にあらはれてはならぬ。自然なよく出來た曲は個々の箇所が多少むづかしくも覚えやすく、又、断片的に見れば、易しい音程リズムばかりからできてゐてもちつとも面白くない爲にいつ迄も子ぎにも覚えられない曲もある。すべてよい曲は意味がはつきりしてゐてわかりやすくその程度なりに演奏もやさしいのが常である。鑑賞曲になればこの事は更に顯著であつて、名家の作になる構成の複雑なオーケストラのマーチは簡易平凡なピアノ用のマーチよりも愛好されそのふしも案外樂々こまねされるこゝは珍しくない。又同じ歌曲を子ぎも大人も聲樂家も唱つて夫々面白く、勿論いづれも間違はずに唱ひ得乍らその上手さには際限のないこゝも藝事の一つとして當然である。子ぎもの歌の歌詞が内容や用語から見てわかり易く親しみをもち得るものであるこゝはもとより大切である。然し歌詞のわけが分らぬまゝでも音樂的によいふしのもは愛唱され後年その歌詞の意味がわかり文語の字句文法修辭等を覺えるのに役立つこゝもある、これは變則な事としてあながちに排斥できない。記憶しにくい事柄でも和歌の體等にまこめるこゝが昔から行はれてゐるのは、格調さといふ音樂的な性質の利用であらう。

教しへ方その他。子ぎものうたは唱ひ方もできるだけ自然で素直でありたい。大人の考へで感傷的なあやをつけさせたり作りごみのあぎけなさを求めるのは警戒すべきだ。ふしや歌詞からくる自然な表情を越えてはならぬ。その爲にはよい曲を選ぶ事が何より大切である。今の幼稚園でみんな歌を教へてゐるのか餘り知らないでそれ以上はいひにくい古い

まころでは瀧廉太郎氏の幼稚園唱歌のうちに今になつてもよいものがあり、又他の外國の事はよく知らないが獨逸の子きも達はその點で恵まれてゐるやうに思ふ。まにかく子きもの時に接する音楽が一生の趣味の根柢をなすこゝを忘れてはならぬ。

大事な教具であるピアノの品質や調律またその全國の幼稚園への普及はみんなであるかも知りたい事である。又實行は中々むづかしいだらうが保姆の方々、特に主として音楽を擔當される人達の音楽上の素養技倆は少なくも今の中等學校の専科の先生より下であつてはならぬ筈だと思ふ。小學校で一年生の授業がむづかしいものさされて居るこゝや、幼稚園では音楽が仕事のうちの大切な位地を占めて居る事を考へるこゝよきが上にもよき先生が望ましい。

## ○

早教育。専門家をつくるための音楽の早教育は特殊教育として或點迄は避け難いのであらうが、それが往々危険な犠牲を胎んで居る事を忘れてはならぬ。本當に豊かな才能を内蔵して居る子きもは、周圍でそんなにせきたてずとも自然な機會を重ねて行くうちに、もつこはつきりした見込がたつものであり、又一生を賭ける仕事として餘り片輪な人間ではおぼつかない次第ゆゑ萬事無理があつてはならぬ。日本の現状から察して専門家の資格はぐん／＼高くなつて行く事を、それだから尙更早くから始めねばならぬまばかり考へるのは淺薄で危険だと思ふ。殊に女の子の場合は年頃になつての變化の激しいこゝも充分顧慮すべきである。